

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌

花



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2016.SPRING [No.16]

新潟大学

授業紹介 -教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

シリーズ「恩師と語らう」

注目される研究報告

Campus Information

特集

「高い専門性に立脚した
グローバル人材の育成」

「高い専門性に立脚したグローバル人材の育成」

刻々と変わる現代の社会情勢では、国境を越えて活躍ができる人材が求められています。今号は本学のグローバル人材育成の取り組みを特集します。

情報や交通網の発達で広がった卒業後の活躍の舞台。求められる相互理解力

「グローバル人材」という言葉がしばしば使われ、求められるようになった背景には、どのような社会の変化があるのでしょうか？十数年前まで、新潟大学に限らず日本の大学生が学ぶフィールドや、卒業後に活躍する舞台の中心は日本国内でした。しかし、情報や交通網の発達は著しく、人生を豊かにするための学びや経験ができる範囲も広がりました。海外留学や旅行が身近なものになり、様々な価値観や経験、問題に接する機会も増えたと思います。このような社会では多様なものの考え方をする人たちに對して、相手をしっかりと尊重し自分の考えを伝え、理解し合える力を身につけることが求められます。語学ができるだけでなく、自分を主張する力と相互理解力を持った人がグローバルな人材だと考えています。

高まるグローバル人材のニーズ。在学中から意識し考え方を身に付けることが重要

社会の変化に伴い、グローバル人材のニーズも高まっていますね？

日本の企業も生産や販売の拠点をどんどん海外に移しています。技術が進歩し、製品や装置はより高度に複雑化しています。セールの場面では語学力だけでなく専門知識も必要です。エンジニアはモノさえ作れば良いという時代ではなく、その機能や魅力を現場で正確に伝えるコミュニケーション力も求められています。このような社会で活躍する人材になるためには、在学中からグローバルな考え方を身に付けることが重要だと考えています。

「グローバル人材を育成するために、新潟大学ではどんな取り組みをしているのでしょうか？」

現在、各分野での専門教育に加え、「外国語教育」「留学」「国際教養」を学ぶ。「留学」という自分の興味に対して学生が主体的かつ系統立てて学ぶことができる内容になっています。語学や多文化を理解する力が身に付くことで、自

の専門分野を学ぶ力が伸びることも期待しています。

学生が主体的に環境を変えていきたくなる状況を作り出す

「語学や多文化を理解する力が身に付くことで、自分の専門分野の力が伸びることも期待」

重要なのは、学生の学びの動機づけを促すことです。学生にとって留学が身近になり、学内でも海外からの留学生と接する機会が日常的になることで、学生の意識が高まり、主体的な学びが促されると考えています。そのためには私たちグローバル教育センターも、ただ制度を整え指導するだけではなく、学生が自ら環境を変えていきたくなるような状況や場面を作り出すことが重要だと考えています。

教育・学生支援機構
グローバル教育センター長
佐藤 孝 教授



CONTENTS

03 特集

「高い専門性に立脚したグローバル人材の育成」

08 授業紹介・教育の現場・

09 Enjoy! 学生ライフ

10 シリーズ「恩師と語ろう」

11 注目される研究報告

12 Campus Information

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題 字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

公式Facebookページ更新中!

f 新潟大学 Facebook

本学ホームページからアクセスしてください。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いします。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信しています。

Cover Photo

雲ひとつない青空の学生広場にて。特集でも紹介している副専攻「国際教養」を履修中の将来への希望に満ちた表情の学生達を、グローバル教育センター長佐藤先生と留学支援の最前線で学生をバックアップしている留学交流推進課のスタッフで囲んでの一枚。



副専攻「国際教養」

●副専攻制度とは

新潟大学では、意欲ある学生が、複数の分野で体系的に学ぶことのできる「副専攻制度」を全国の大学に先駆けて導入しました。副専攻は、新大生の将来の可能性を広げます。「主専攻＋副専攻」により、例えば「環境に詳しいエンジニア」や、「科学に詳しいジャーナリスト」など、各学生の個性に合わせた「なりたい自分」の実現をサポートします。副専攻には「課題別副専攻」と「分野別副専攻」という2つのタイプのプログラムがあります。「課題別副専攻」は、全学で開講されている科目を分野横断型に統合したテーマカリキュラムであり、「分野別副専攻」は特定の学問分野の授業科目から作られたプログラムです。

●副専攻「国際教養」とは

課題別副専攻「国際教養プログラム」は、海外留学に関心のある学生に対して、海外留学の意義と具体的な方法についての知識、日常会話及び専門講義への橋渡しとしての外国語コミュニケーション能力、我が国と諸外国の文化についての知識とそれらを尊重しようとする態度を育成する授業を提供するものとして2015年度に新たに開設されたプログラムです。グローバル化の進展に伴い、国際的に活躍できる人材の育成が求められています。この有効な手段として考えられるのが海外留学ですが、その意義や方法について学べる場は極めて限られています。課題別副専攻「国際教養」は、こうした内容について体系的に学ぶことができるプログラムです。

外国語教育 英語

新しい実践英語プログラム S.P.A.C.E.

2013年度から、グローバル人材を育成するための新しい実践英語教育プログラム“S.P.A.C.E. (Skills Program for Academic and Content English)”をスタートしました。プログラムは3学期にわたる階層的なものになっており、このプログラムを修めることにより、それぞれの専門領域で、グローバルに活躍する人材として社会に貢献していく素地を築くことができます。

外国語学習支援スペース FL-SALC

図書館内に外国語学習支援スペース“FL-SALC (Foreign Language Self- Access Learning Center)”を設置しています。FL-SALCでは、留学生との英語・初修外国語による自由会話、英語のライティング支援や発音指導、テーマ別グループ学習、英語学習カウンセリングなどを行っています。

Phase 1	Phase 2	Phase 3
Foundation 一般的な場面やアカデミックな場面で、聞く・話す・読む・書くことができるよう、基礎4技能を徹底的に磨きます。	Application 専門分野で使用する英語の運用能力を強化し、リサーチやプレゼンテーションに必要な知識・技能を習得します。	Extension 専門分野の講義を英語で理解し、発言できる力を育成します。海外留学の雰囲気を楽しむことができます。

※S.P.A.C.E.は、2016年度は法学部、工学部、医学部医学科の1、2年生を対象に開講しています。

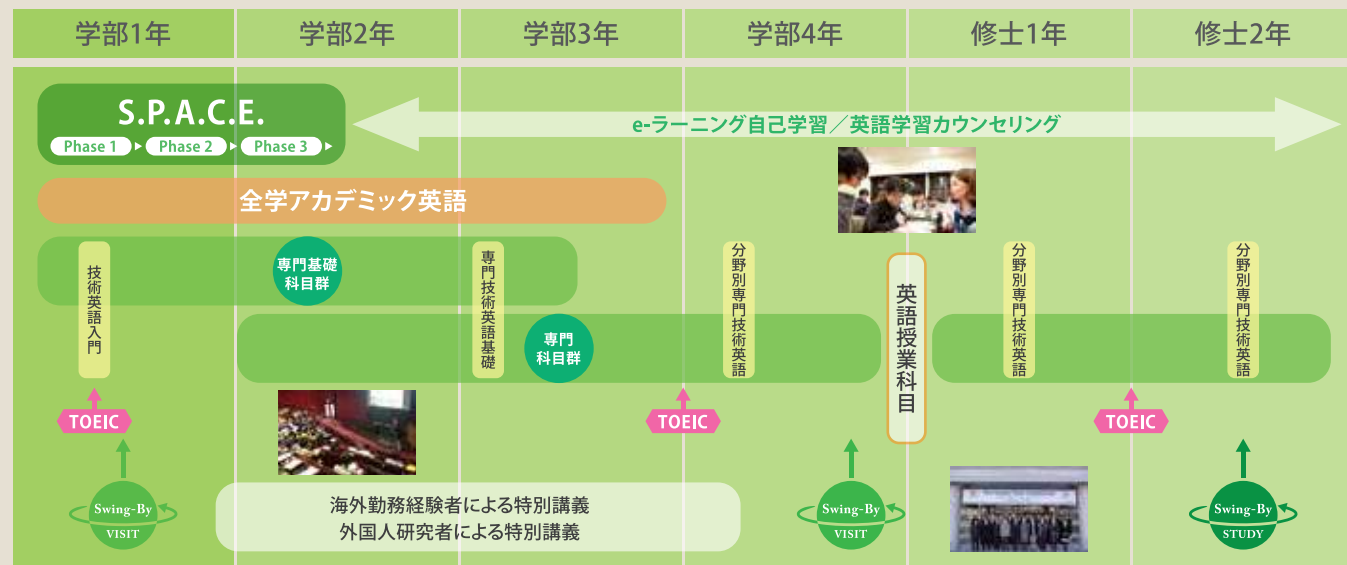


PICK UP

グローバル教育プログラム 工学部の場合

工学の幅広い基礎力と高い専門性を身につけ、国際コミュニケーション能力と異文化理解を備えた21世紀の国際社会で活躍できるグローバルエンジニアを育成します。

- S.P.A.C.E.＋e-ラーニング自己学習＋専門技術英語＋TOEICによる「英語力」の修得プログラム
- 協定締結大学への学生派遣「Swing-By Visit (海外体験型)」、「Swing-By Study (海外研究型)」
- 海外勤務経験者、外国人研究者による特別講義



各分野での専門教育



外国語教育

実践英語教育
S.P.A.C.E.
FL-SALC
ネットワーク型教材

留 学

ショートプログラム
専門分野プログラム
交換留学

国際教養

副専攻「国際教養」

各分野の能力に加えて「グローバル対応力」を身につけて卒業

「高い専門性に立脚したグローバル人材」へ

留 学

豊富な留学プログラム

新潟大学では留学の機会を幅広く提供しています。より多くの学生に国際経験の場を提供するために、海外が初めての学生でも参加しやすい「ショートプログラム」から、海外で各学部での専門分野を短期間学んでみる「専門分野プログラム」、さらには1学期または2学期間の「交換留学」へと、段階を追って留学できるプログラムを用意しています。

STEP 1

ショートプログラム 1週間から1ヶ月程度

まずは留学を体験してみよう!

語学研修・異文化体験等を目的とした、全学部の学生を対象としたプログラムです。海外の大学の学生寮に住んだり、ホームステイをして現地のファミリーと交流したり、海外の生活、異文化に触れることができます。



STEP 2

専門分野プログラム 1週間から1ヶ月程度

海外で専門分野を学ぼう!

各学部で用意している、それぞれの専門分野を学ぶためのプログラムです。たとえば、海外の裁判所で研修をしたり、医療現場で臨床研修を経験したり、各専攻に合わせたプログラムが組まれています。



STEP 3

交換留学 1学期又は2学期間

本格的に外国語や専門分野を学ぼう!

世界中の大学との間で結ばれた交流協定に基づき、協定校に留学する制度です。留学先では外国語や専門科目等を学び、現地の学生や世界からの留学生と共に学ぶことができます。



奨学金による 経済的なサポート

新潟大学が実施する、多くの留学プログラムは(独)日本学生支援機構(JASSO)の給付型奨学金(返済不要の奨学金)の支給対象となっており、JASSOの定める要件を満たす学生に対してはほぼ全員に6～10万円の給付型奨学金を支給しています。交換留学する学生は、7割程度がJASSOの月額6～8万円の給付型奨学金を受給しています。

特集

学生の「グローバル対応力」を強化する新潟大学の取り組み

新潟大学では、深い教養と確かな専門性、そして高い倫理観を有した上で、高度なコミュニケーション能力を備えた人材を育成します。その取り組みを工学部の事例とともに紹介します。

特集 本学の取組みを経た 学生・卒業生インタビュー

学生時代の留学体験を活かしグローバルなフィールドで活躍する卒業生と、
本学のプログラムを利用し国際経験を積む学生に話を聞きました。

将来は外交に携わる仕事に就きたい



韓国の漢陽大学のキャンパス。1クラス15人以下という少人数体制で、きめ細やかな指導を受けられました。



チャチャコリで撮影。授業や友達との交流は語学の上達だけでなく、考え方を変化させる刺激がありました。

留学の目的は語学力の向上でした。大学の留学プログラムを使い、韓国に交換留学で1年、台湾にショートプログラムで3週間滞在しました。

交換留学と副専攻で 将来の目標を発売

特に印象に残っているのは韓国の漢陽大学語学院での経験です。語学院は留学生が韓国語を学ぶ大学附属の施設。私はそこで最初の半年間は韓国語を学び、残りの半年は並行して大学の一般講義をほぼ英語で聴講しました。韓国語については、前期に1日4時間を週5日間という密度の濃い時間を過ごし、後期の専門科目も

また新潟大学では副専攻でコア領域を取得しました。韓国語に加え東アジア情勢や文化について学ぶことで、将来は外交に携わる仕事に就きたいという目標もできました。よりレベルの高い環境で学び続けるために、現在は韓国の大学院の秋入学を目指して勉強しています。



卒業生

川瀬 愛舞璃さん
(平成28年 教育学部卒業)

理解できるようになりました。

また滞在中は様々な国の人々と話す機会に恵まれました。アジア圏以外では英語を使う人が多く、韓国語と同時に英語に接する機会も多かったと思います。英語を学ぶなら留学先は英語圏というのは先入観なのかもしれませんが、英語の上達と視野を広げるためにも有意義な時間でした。

将来の夢に向けて一步を踏み出せた

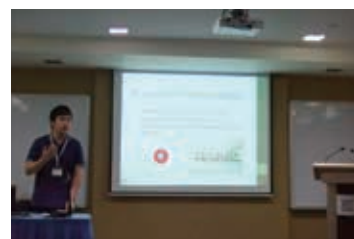


在校生

坂井 亮さん
(人文学部4年)

私は語学研修や異文化体験を目的としたショートプログラムを使い、2年次の春にシンガポールへ10日間、3年次の夏休みに北京へ1カ月間の留学をしました。以前にした私費留学に比べ、大学が安全を確認した上で実施しているという安心感があり、奨学金を援助していただいたことがありがたかったです。

ショートプログラムで シンガポールと北京へ留学



シンガポールでは現地の学生と交流し、異文化を学ぶ上での語学の重要性をプレゼンテーションしました。



北京での留学先は清華大学です。カレッジTシャツに袖を通し、広いキャンパスで記念撮影をしました。

た。国籍や宗教の異なる人たちが同じオフィスで働くという環境を目の当たりにし、「将来は国際物流に関わる仕事をしたい」という卒業後の目標ができました。

北京ではまさに中国語漬けの生活でした。日常会話に身が付いただけでなく、国際社会における中国語の必要性も肌で実感することができました。また、言葉を通して現地の優しさやあたたかさに触れられたことも大きな収穫です。母国語で交わるからこそ伝わる感情があることに気付かされました。

自国文化の理解と多角的な視点を持つこそ国際人。その目標に向けて一步踏み出すことができたのが留学の成果だと思っています。

日系企業が世界で活躍できる一助になりたい



滞在期間は冬学期のみ(2015年1～4月)。新潟より格段に厳しい冬を越え、心身共に強くなって帰ってきました。



大学内にある居酒屋(pub)へ行くと、毎日新しい出会いがありました。沢山の友達ができて嬉しく思います。

交換留学の参加を決めたきっかけは、学部時代に参加したアメリカのイリノイ大学でのショートプログラムです。当時は大学3年生。将来に対する葛藤を抱え、自分を変えるヒントを海外に求めていました。副専攻で英語を修得したこともあり、コミュニケーション力を高めることも目標のひとつでした。留学は非常に実りのあるもので、「アメリカの大学院で学位を取る」という目標もできましたが、交換留学でも同等の経験ができると知り、カナダのニューブランズウィック大学で大学院生として交換留学しました。

視野が広がる 交換留学という体験

ここでは専門分野に加え英語力、行動力、何より今までは勉強経験のなかった技術経営についても興味を持つことができました。コストやスケジュール管理はプロジェクトにおいて非常に重要です。カナダへの留学経験がなければ、工学を学んだ人間が経営に関わるという今の仕事には就けなかったと思いますし、海外での経験は自信になっています。

また、留学を通して日本製品が高い評価を受けて使われ、ポップカルチャーも浸透していることを肌で感じました。それは初めて日本人としての誇りを感じた瞬間であると同時に、将来、日本人として世界に良い影響を与えられる仕事をしたと考えてるようになりました。



卒業生

倉本隆史さん
(平成28年 大学院自然科学研究科修了)
株式会社三菱総合研究所 勤務

エネルギー事業を通して 世界の人々の生活を向上させたい



日本の大学との違いとして、タイの大学では制服を着用して、講義を受けることが決まっています。

UMAP多大学間学生交換 プログラムを利用

私は3年次の後期に、UMAP(アジア太平洋大学交流機構)の大学間学生交換プログラムを利用し、タイのチュラロンコン大学に留学しました。単位交換ができ、帰国後の学業に影響が少ないのも魅力だったと思います。タイでは様々な国籍、宗教、文化を持った人に出会い、政治学や歴史、伝統文化について学びました。英語を用いて現地の学生と意見交換やディスカッションを行なったことで、お互いの文化の理解を深めるだけでなく、積極的に発言する力も身に付いたと思います。また農村部のボランティア活動は特に印象深い体験でした。途上国では今もなお都

市部と地方の格差が大きく、充分なインフラや医療が整っていない現地の様子を目の当たりにしました。

留学前は不安もありましたが、留学交流推進課のスタッフが親身に対応して下さったり、国際センターの教授に派遣国の社会問題や政治状況に関して指導いただき、事前に知識を得た上で安心して留学に臨むことができました。JASSOの奨学金も受給していたので経済的にも安心できました。ぜひ後輩のみなさんにも体験してほしいですね。



卒業生

菊池恵里さん
(平成28年 教育学部卒業)
株式会社東芝 勤務



大学は、タイ王国最古の権威ある大学。バンコクの中心部に位置して、生活するのに便利な環境でした。

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですよ! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE PICK UP!

初心者も多数在籍
フェンシング部



1対1の真剣勝負を楽しめるのも大きな魅力!

↑五十嵐キャンパスの第3体育館で、週3回の練習に励む

1対1の真剣勝負! 技の多さとかけひきが魅力

「現在部員は15名。経験者もいますが、初心者で入部する人がほとんどです。練習は基本的なステップや剣の扱い方からはじまり、試合形式のトレーニングも行っています。剣を使う競技は他にもありますが、フェンシングは技の数が多く、テクニックやかけひきの上手さで勝負が決まるところが魅力。自分の頭の中でイメージした動きで勝負が決まると快感です。目標は全国の国立大学が集まる夏の大会。優勝するために一丸となって練習します」

部長 古田島 亮さん(工学部3年)



CIRCLE PICK UP!

音楽を演奏する喜びを体感する
吹奏楽部



週3回行われる合奏練習の様子 指揮者も部員が務める

↑今年の4月には44名の新入部員が入部。総勢83名で部活動を行う

音と音が重なる 合奏を楽しむ

「普段の活動は週3回、合奏練習がメインです。部員全員が課題を見つながら真剣に練習に取り組んでいます。指揮者の先生、各楽器のプロの先生から直接指導をいただく機会もあり、専門的な知識を得られるのも魅力です。部活動の成果を発表する場として、部が主催する定期演奏会、訪問演奏会などがあります。楽器はひとりでも演奏できますが、たくさんの楽器と音を合わせることで、もっと楽しくなりますよ」

部長 高畑遼平さん(教育学部3年)



CAMPUS TOPICS!

各サークルの先輩たちが新入生を歓迎
第57回黎明祭



4月9日(土)、新入生を歓迎するとともに、サークル紹介の場として、黎明祭実行委員(学友会役員)が中心となり第57回黎明祭を五十嵐キャンパスにおいて開催しました。当日は、晴天に恵まれ、第一学生食堂前広場に設置された野外特設ステージでは、音楽・ダンスサークルによるパフォーマンスやお笑いライブなどが催され、多くの学生たちで賑わっていました。新入生は先輩学生からサークル勧誘のために手作りしたチラシを受け取ると緊張しながらもサークルのブースで熱心に説明に耳を傾けていました。

今年度輝いた学生たちを表彰しました
平成27年度学友会表彰及び学生表彰

3月15日(火)、優秀な成績を修めた者や、活動等において特に顕著な成果・功労のあった個人、団体、教職員を表彰する「平成27年度学友会表彰」、「平成27年度学生表彰」を実施しました。今年度は、学友会表彰では学生9人・2団体・教員4人、学生表彰では学生13人・1団体に対して表彰状と記念品が贈呈されました。今回の表彰にあたり、学長からは「この大学での素晴らしい功績を誇りに、社会に出てからも頑張っていってほしい」との祝辞が述べられました。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介 — 教育の現場 —

第15回 農学部

代表教員 箕口秀夫 教授
中田誠 教授、崎尾均 教授、森口喜成 助教

Profile
専門は生態学・森林学。新潟大学在籍時からずっと新潟で活躍。



育林系演習及び実習

森林の持続的利用を可能にするための森林調査、森林施業に関する技術を、野外フィールドで習得

高齢化や後継者難等で管理が行き届かずに荒れる里山も増えている昨今。健全な森林の持続的利用のためには森林生態系の管理と、その管理計画に基づいた育林が必要。農学部生産環境科学科・森林環境学コースの学生は、その管理計画策定にかかわる知識や森林施業に関する技術を体系立てて学ぶなか、それらを森林の現場で経験する貴重な機会がこの実習だ。指導役の箕口教授は言う。「森を育てるということは、いろんな情報を整理して必要なものを取り出していく作業。本学科では座学とフィールドでの実習を必ずセットでやろうと決めています。座学ですでに森林再生学や森林保全学などを勉強していますが、その具体的な中身を現場で確認しようということです」。この日は、五泉市村松の林で教授と学生がどの杉の木をどう間伐(間引き)するべきか検証していた。「机上では分からないことを現場で体感できます。学生たちも自然の中で目を輝かせながら向かっていますし、とても意義のある授業だと思っていますよ」。

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。



STUDENTS VOICE

「目で見ないと知識が確かなものにならないので、フィールド実習は楽しいし、ためになりますよ」(高野)「私もそう思います。こうした実習で、勉強してきたことが実際に森林でどう使われているのか分かりますから、とても大事な経験をさせてもらっているな」(生亀)



右 生亀史恵さん(農学部3年)
左 高野兼也さん(農学部3年)

代表教員 高橋能彦 教授
崎尾 均 教授、本間航介 准教授、韓 東生 准教授、吉田智佳子 助教、阿部晴恵 助教、菅 尚子 特任助手

Profile
専門は土壤肥科学。農地の生産性維持と安定生産に向けた栽培体系を研究。



基礎農林学実習A

農業現場を実際に経験・観察 学習や研究を遂行する基礎的素養を培う

現在、農学教育と生産現場との乖離が問題となっている。多様な立場から問題を認識し、特に現場サイドからの問題提起を理解し、総合的な解決策を考える能力は、実体験の有無に大きく左右される。「本実習は農学部附属のフィールド科学教育センターが担当し、村松、新通および佐渡の各ステーションを活用して学びます。学生が農業生産、森林環境等に関係する作業を、現場で実際に経験・観察することで、それぞれの特質を理解し、学習や研究を遂行する基礎的素養を培うことが目的です。学生は実習を通して、農学に取り組む動機をより明確にすることができると思います」と高橋教授。除草や防除など作物の管理、草花の定植、トラクターなどの農業機械の操作、土壌調査、牛の搾乳や給餌、糞尿処理、子牛の哺乳、ヤギの飼育管理など、実習内容は多岐に渡り、複数の教員が連携をとって指導する。「作物を育て、収穫し、食べるといった食糧サイクルの一連の流れ、それを1、2年次から田畑に出て体験することはとても重要です。学生は3年次以降、各コースに分かれますが、ここでの学びは先の専門分野でも大いに役立つはずだ」。



STUDENTS VOICE

「今日の新通ステーションでの実習は、ソラマメの栽培管理について学びました。生の農業に触れることは、今後の進路を考えるきっかけにもなります」(大島)「田畑に出て実際に土に触れることで、講義室での学びが一層身に付くと思います」(岩上)



右 大島 輝さん(農学部2年)
左 岩上友香さん(農学部2年)

研究課題

海外援助についての トランスファー・パラドックスの研究

人文社会・教育科学系(経済学部) 濱田弘潤 准教授

海外援助を援助国が行う動機と被援助国への影響を考察する

政府開発援助(ODA)として知られる海外援助。2000年以降、日本のODA支出は横ばいで、2005年から2014年の間に世界第2位から第5位に低下した。実は、援助をすることが援助国や被援助国にとって望ましいのかどうかは、経済学では長年の論争となっている。「経済学では、援助によって援助国の社会厚生が増加する、あるいは被援助国の社会厚生が低下することを、トランスファー・パラドックスと言います。著名な経済学者のケインズとオリーンとの間で、1929年に経済論争が起こって以来、多くの経済学者がこのパラドックスに取り組んできました」。第

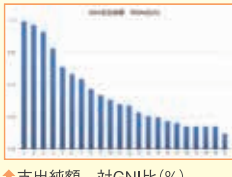
1次世界大戦後のドイツへの賠償金問題を巡り、1919年にケインズがドイツへの巨額賠償金支払いを批判して以来、トランスファー（所得移転）の問題は、直接的な所得効果に加えて、交易条件効果と呼ばれる間接的効果を考慮した上で、社会厚生上の影響を検討する必要がある。その後、サミュエルソンが、一般均衡理論を用いて、2国間ではトランスファー・パラドックスが生じないことを示し、援助国の社会厚生は必ず低下することが解明された。このため援助を動機付けるために、援助国が被援助国を気にかける利他的効用をもつという前提で、議論が行われてきた。

「利他性が増えると援助国の社会厚生が増加するという直観に反し、実際には、たとえ利他性があっても援助国の社会厚生は改善しません。この結論を論文にまとめ、2012年に第7回小島清賞優秀論文賞を頂きました」。経済主体がどんなに利他的であったとしても、自分のことを相手以上に重視する意思決定主体であるために、所得効果が交易条件効果を必ず上回ることを明らかにした。その後、異時点間を考えて移転所得が資本蓄積に影響する動学的な枠組みに分析を拡張しても、パラドックスが生じないという同様の結果を得ている。「今後は、利他的効用や習慣形成といった、これまで伝統的な経済学ではあまり扱われてこなかった経済主体の行動を考える、行動経済学の分析手法を取り入れて、望ましい国際経済援助の望ましいあり方を明らかにしたいと考えています」。



博士(経済学)。専門
は企業経済学、産業
組織論、国際経済学。

→ 優秀論文賞の授賞講演



↑支出純額 対GNI比(%)

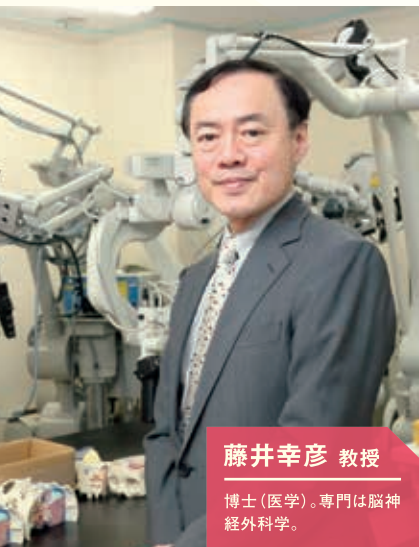


↑日本のODA支出額の推移

研究課題

3次元工学を利用した 脳神経外科手術シミュレーションシステムの開発

脳研究所 臨床神経科学部門
脳神経外科学
藤井幸彦 教授



博士(医学)。専門は脳神経外科学。

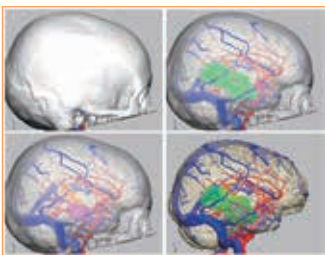


←手術シミュレーションを行った3次元画像データを3Dカラープリントし、模型を製作



→ 模型と実際の手術器具を使った模擬手術。向上した技術や知識は現場にフィードバックされる

手術の安全性・確実性の向上と
教育システムの完成を目指す



↑個々の手術症例の様々な詳細神経画像データを統合し、3次元融合画像を作成。3次元工学を用いて、実際の手術のシミュレーションを術前に行う

渡る伝統に最新の技術を融合させながら、日々の臨床研究を進めています」と4代目の藤井教授。注力するのは、3次元工学を取り入れた手術のシミュレーションだと考えています。

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

注目される 研究報告

鯨越 私は29年間、新潟大学に勤務しましたが、最初の20年が法学部で、あとの9年は法科大学院。今日はその二つの時代を代表して――稲田先生は学部時代、私のゼミで勉強し、二宮先生は法科大学院時代の教え子だったと。そんな二人に来てもらったんです。

――稲田さんは、鯨越先生が新潟大学にいられて最初の頃のゼミ生とお聞きしましたが、当時のゼミのテーマは…。

稲田 「よく遊び、よく遊ぶ」です(笑)。当時は晴ればソフボールで、雨が降ったら筋トレ、みたいな感じで…。

――(苦笑)何の勉強をしていたのやら…。

鯨越 あのね、当時はゼミ對抗のソフボール競技会があった、その練習をした後で勉強するっていう毎日だったんです。

稲田 …いや、そういう風には聞いてないですね(苦笑)。

鯨越 そう(笑)? いずれにせよ、学部時代とか、学生との距離はすごく近かったかな。しょっちゅう研究室に誰かが来て喋っていたし――。

稲田 ご自宅にも何度かお邪魔して、騒いだりとかね(笑)。

――その点、二宮さんの時代はどうだったんですか?

二宮 私が院に行っていたのは約10年前ですが、ソフトボールのソの字もなく(笑)、先生には「この問題集を解け」と、常にしぼられてましたよ。

鯨越 彼はとても頭がいいんです。ただ、黙っているとサボリがちで…このまま放置したら口ク

豪語されましたけど、そうじゃないんですよ(笑)。

二宮 実は、そんなに長くない先生ですからね(笑)。



にのみや じゅんご

二宮 淳悟 弁護士

2004年、九州大学卒業。2008年に新潟大学院実務法学研究科修了。現在は新潟合同法律事務所に所属。

鯨越 やっぱり、歳をとると懐が広くなってくるのよ(笑)。

二宮 (笑)でも先生、歳の話で言うなら、鯨先生はもう、人の3倍はやることをやられてきたので、これからは日々ゆつくりとお過ごし頂きたいです。

稲田 まさに！ 本当によい歳なんだから、無理せず、ゆつくりしてもらいたい。まだまだ元気でいて欲しいので――。

鯨越 いやあ、僕はさっさと逝くよ(笑)。

稲田 いやいや！ 若いときか

稲田 学部時代はさつき話したような感じでしたけど、その後、大学院に入ってからのご指導は、学問的に極めて深いものでしたし、議論の相手も随分して頂きました。その意味では僕も先生がいなければ今の道に進んでないし…、最近思うのは、学生に対する接し方も徐々に似てくるんだなと（笑）前は学生に厳しく接していたところが、最近はいだいぶ優しく

なことにならないと思ひ(笑)
厳しくしたという。もともと九州大学卒で、そこから遠く新潟の大学院に来て、集中して勉強しようと思つていたんだろうし——。

二宮 でも、大学卒業時は弁護士になろうと思つてなくて、ちよつとその頃、鯨(なまず)先生は法科大学院の設立に尽力されていたんですけど、私も新潟に新しい法科大学院ができると知つて興味がわき、遊び慣れた九州から出ようと決意し

なまずごし いっひろ
鯨越 溢弘
名誉教授

博士(法学)、弁護士。九州大学法学部卒業後、同大学院等を経て、1984年より新潟大学法学部で教鞭をとる。1999年、新潟大学法学部長。2004年開校の新潟大学法科大学院の設立にも大きく貢献。

シリーズ
「恩師と語らう」
恩 師： 鯨越 溢弘 名誉教授
元・新潟大学法学部教授

教え子：稲田隆司 教授 二宮淳悟 弁護士

撮影場所／新潟大学 人文社会科学系棟 学際交流室

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります！



旭町キャンパスに学生たち待望のサークル共用施設が完成

この度、旭町サークル共用施設及びテニスコートが竣工し、平成28年4月7日(木)オープニングセレモニーを開催しました。活発な課外活動を支える安全で快適な施設づくりをコンセプトに計画され、大学基金からの寄附金も一部活用することで、鉄筋コンクリート造で地上3階建と塔屋1階建で延べ床面積1,707.66平方メートルもの存在感のある大きな建物の建設が実現しました。

1階はサークルの部室やシャワー室等を整備。2階にはアリーナとトレーニング室、3階には武道場。利用サークル

の代表から編成される検討委員会が立ち上げられ、利用学生の意見が様々な場所に反映されています。また、建物の南側に設けた大きな開口部や階段室にカーテンウォールを設置することで、自然採光・自然換気に配慮しながら、明るく開放的なデザインとなっています。

また、隣接する旭町学術資料展示館のタイルの色彩や素材感との調和にも配慮された外観のデザインにもこだわった施設です。オープニングセレモニーには、150人を超える学生たちが集い、新施設の完成を祝いました。

この度の熊本地震により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

医療救護チームを熊本県に派遣し、医療救護活動を行いました

本学医歯学総合病院では、新潟県からの要請を受け、医療救護チームを熊本県へ派遣し、4月22日(金)から27日(水)まで、熊本県で医療救護活動を行いました。医療救護チームは、医師2名、看護師2名、薬剤師1名、救急救命士1名、事務職員1名の7名で構成されており、内6名は、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームであるDMAT隊員です。4月21日(木)には出発式が行われ、鈴木榮一医歯学総合病院長は、「自身の安全にも留意し、被災された方々のお役に立つよう、しっかりと医療活動を行ってほしい」との挨拶があり、チームを代表して高橋昌教授

(医学部災害医療教育センター)から「中越地震や中越沖地震の際は、全国からたくさんのご支援いただいた。感謝の気持ちを込めてしっかりと活動してまいります」との決意が述べられました。

なお、第1班に引き続き、第2班5名のスタッフも4月25日(月)から6日間、現地での救護活動にあたりました。

また、被災地の復旧に向けた支援の一環として、教職員に対し義援金の募集をするとともに学内数か所に募金箱を設置し、寄せられた義援金を日本赤十字社



(義援金名称:平成28年熊本地震災害義援金)へ全額寄附することとしています。

新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

学生の修学支援、国際交流活動等に活用しています。

※税法上の優遇が受けられます

●基金ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新大サポーター連携推進室

電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-7796

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



「新潟大学カード」入会受付中!

VISA付きの国際カード「新潟大学カード」。

卒業生と母校の絆を、いつもポケットに!

●新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話:025-262-7891

(受付時間 平日10:00~15:00)

E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

入会受付中



新潟大学
季刊広報誌

六花

RIKKA
2016.Spring

No.16

■発行/平成28年5月 ■編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

■電話/025-262-7000 ■FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook <https://www.facebook.com/niigata.univ>

編集後記

原稿の編集をしていると外から楽しげな声が。窓からキャンパスを見下ろすと、満開に咲いた桜越しに初々しい新入生の笑顔が見え隠れしていました。長いようであつという間の4年間。今しかできないこと、ここでしかできないことにチャレンジし、キャンパスライフを謳歌して欲しい、と心の中でエールを送りました。(K.I)

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。